

大島紬絰文様集Vol.02小柄（無名柄）の発刊

大島紬部 ○徳永嘉美

1. はじめに

大島紬の販売促進で「語り」は重要な要素となり、伝統としてのブランドイメージの向上とプレゼンテーション資料には、その背景となるルーツの検証と文献等の整備が必要である。

大島紬の絰文様は、世界に類を見ない精緻で独特なもので、その絰から生み出される文様は地域の文化である。当センターでは、これらの絰文様を調査復元し体系化を行っている。

先に体系ビジュアル化した柄のルーツである「伝統的絰文様の基本形」から派生し、締機によって形成された絰文様は、時代ごとに小柄、小中柄、割り込み柄、龍郷柄に分類される。その中で最初に登場した小柄は、大柄が作製できる交代締めが開発されるまで盛んに作られた。紬組合に工場独自の意匠を登録するなど当時の活性化が窺える。その登録意匠は戦火で惜しくも消失したが、その後の調査研究でその多くが復元された。当センターの前身である大島染織指導所並びに大島紬技術指導センターにおいては、二十年余り伝統的な小柄の復元に努め、得られた成果はそのつど業界へ公にしていたが、当時は製品試作での復元であったので数に限界があった。そこで、近年のコンピュータによる画像処理技術を用いて正確に織上がりを想定することが可能となり、絰文様集としてまとめることとした。

2. 大島紬絰文様集Vol.02小柄（無名柄）について

大島紬の絰文様は、当初琉球絰を受け継いでいたが、明治末、締機を開発することで独自の絰文様のデザインを確立した。まず最初に登場したのが小柄である。そのデザインの発想は自然の事象、そして身近な暮らしの道具や遊具など様々で、土地の風土に染まりながらさらに変化している。

多くの小柄が残されているが、まず名称が残されているものを「伝統柄」として位置づけ、デザインの発想元や名称の由来等を分析集約し、昨年度第一集として発刊した。本年度は引き続いて第二集として、名前の残されていないものをデザインの構成要素ごとにまとめて232柄を収録し、小柄（無名柄）として発刊した。刊行した絰文様集とその内容の一部を図1に示す。

前集と同様、小柄を再現するためには組織の分解図が重要となるので、織上がり想定図と共に表記した。さらには、参考資料として絰締めの羽割り、特記事項等を付け加えて設計図としての機能を果たしている。

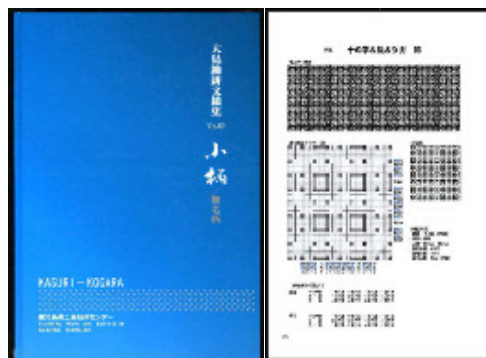


図1 絰文様集Vol.02小柄（無名柄）

3. 編集内容

小柄の造形的な基本形は、十の字絰、長絰、ツガ（四角）である。デザインの構成要素として、各基本形単独での文様展開そしてそれぞれの基本形の重合があげられる。

第二集としての小柄（無名柄）は、①十の字、②長、③十の字&長、④十の字&ツガ、⑤長&ツガ、⑥十の字&長&ツガ、⑦縞&格子の7つのコンテンツに集約し編集した。

7つのコンテンツと仕上がり想定の一部を図2に示す。




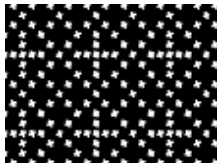
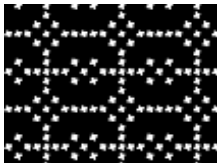

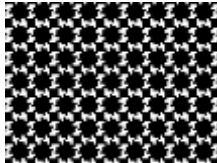


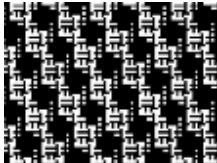


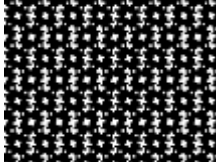

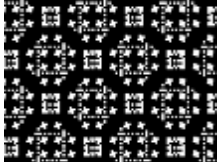






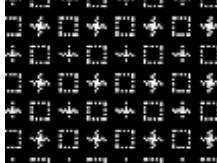





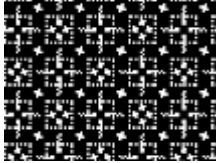






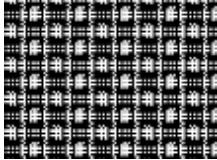
コンテンツ	仕上がり想定図			
<p>十の字</p> 				
<p>長</p> 				
<p>十の字&長</p> 				
<p>十の字&ツガ</p> 				
<p>長&ツガ</p> 				
<p>十の字&長&ツガ</p> 				
<p>縞&格子</p> 				

図2 コンテンツと主な仕上がり想定

4. おわりに

小柄の大島紬は、これまで男性用として製造されていたが、近年女性も着用するなど用途の広がりを見せている。また小柄は着尺のみならず、小物やネクタイなどの柄としてもその可能性を秘めており、この基本柄を基に応用展開できるよう拵文様集を編纂した。

本拵文様集作成に当たっては、平成23年度の緊急雇用創出事業で実施した。関係者の皆さんに、多大な協力を得たことを付して謝意を表したい。